

中国AI最前線：WAIC2025に見る最新トレンド総括

全体の要約（概要）

2025年7月末に中国・上海で開催された**世界人工知能大会（WAIC2025）**は、中国におけるAI産業の急速な発展と最新トレンドを示す大規模イベントとなりました¹²。テーマは「**智能时代・同球共济**」（AI時代のグローバル連帯）であり、AIを経済成長の原動力と捉えつつ、国際協調によるAIの発展とガバナンスを強調するものでした³⁴。過去最大規模となった展示会場（初めて7万㎡超）には**800社以上**（半数はスタートアップ）が出展し、**3,000以上**の最先端AIプロダクトが展示され、そのうち**100以上**が国内外初公開となりました²。会期中には**40を超える大規模AIモデル**、**50種類以上のスマート端末**、**60種類以上の知能ロボット**が発表され⁵⁶、生成AI・ロボティクスからスマートシティ・医療・交通・教育まで、幅広い分野における最新技術動向が紹介されています。

今回のWAICには国内外から**延べ35万人以上**が参加し（猛暑と台風警報にもかかわらず）、開催期間中に**300件超、総額162億元**にも及ぶ商談・契約が成立するなど、産業界からの関心と実需の高さが示されました⁷。中国政府・上海市もWAICを通じてAI産業振興策を次々と打ち出しており、上海市は**30億元規模**のAIベンチャー投資基金設立やAI応用拡大に向けた**12の新施策**を発表しました⁸。また李強・國務院総理（前上海市長）は開幕式で「**AIは人類社会の公共財**であり、開発と安全のバランスが必要」と演説し、グローバルなAIガバナンス枠組み構築のため**世界AI協力機構（WACO）**の上海設置を提唱しています⁹¹⁰。会議では**グローバルAIガバナンス行動計画**も採択され、技術革新やデータ共有、途上国支援など13項目の国際協調イニシアチブが示されました¹¹。

本レポートでは、WAIC2025で浮き彫りになった**中国AI分野の最新トレンドと特徴**を包括的に分析します。まず生成AI・ロボティクス・スマートシティ・医療・交通・教育など分野別の技術動向を整理し、次に主要な企業・研究機関の取り組みや発表内容を紹介し、さらに中国政府および地方自治体の支援政策や戦略、米国との競争や国際協力の状況、AIの社会実装に向けた課題と現状を考察します。最後に、WAICの展示内容や注目セッションの要点をまとめ、これらを踏まえた**今後の展望と結論**を示します。中国は近年、AI特許出願数で世界の6割を占めるなど技術革新で存在感を高めており¹²、WAIC2025は「追従者からリーダーへ」と変貌しつつある中国AI産業の現在地を示す象徴的な場となりました¹³。

技術分野別のAIトレンド

WAIC2025では、多様な応用分野におけるAI技術の最新動向が紹介されました。以下、主要な分野ごとにそのトレンドをまとめます。

生成AI（大規模モデル・コンテンツ生成）

中国では、**大規模言語モデル（LLM）を中心とする生成AI開発**が急速に進み、WAIC2025でも数多くのモデルや応用が披露されました。会期中に**40以上のLLM**が発表され⁵、中国が有するAIモデルの総数は**1,509件**と世界全体の4割超に達したと報告されています¹⁴。テンセントや商湯科技（SenseTime）など各社が新モデルを競って発表し、例えばテンセントは**3次元仮想空間を生成**できるオープンソースモデル「**混元3D世界モデル1.0**」を公開しました。このモデルは自然言語や画像入力から**没入型の360度バーチャル3Dシーン**を自動生成し、VRやゲーム等の制作プロセスを大幅に効率化します¹⁵¹⁶。混元3Dは3D映像制作の業界標準ワークフロー（CGパイプライン）にも対応した初のオープンソース3D生成AIモデルであり、仮想現実やメタバース分野で注目を集めました¹⁷。

一方、商湯科技はマルチモーダルAIシリーズの最新モデル「SenseNova（升明）V6.5」を発表し、画像認識や強化学習効率でGoogleのGeminiやAnthropic社のClaude 4など**米国の最先端モデルを凌駕する性能**を達成したと発表しました¹⁸。同社は2025年4月にも前バージョンSenseNova V6を公開しており、中国企業による**独自モデルの高度化と多モーダル化**が急ピッチで進んでいます¹⁹。加えて、科大訊飛（iFLYTEK）はWAIC開幕前日の7月25日に**大型言語モデル「星火Spark X1」**を発表しました。Spark X1は**130以上の言語**をサポートし、翻訳・推論・テキスト生成に優れ、会場では海外来場者が各国語で質問するデモも行われました²⁰。iFLYTEK幹部は「我々の大模型製品は自動車などスマート端末を通じてグローバル展開しており、教育などの分野でも海外パートナーと協業している。中国発の大モデルが世界を加速させている」と述べており、中国企業によるLLMの**海外展開・技術輸出**が進みつつあることが示唆されました²¹。

生成系AIではテキストや画像だけでなく**動画生成AI**の進展も注目されました。ショート動画プラットフォームの快手（Kuaishou）が開発した生成AIモデル「Kling」は2024年6月の公開以来30回以上アップグレードを重ね、全世界で**4,500万超のクリエイター**に利用されて累計**2億本の動画と4億枚の画像**を自動生成し、2万社以上の企業顧客にサービス提供しています²²²³。Klingは2025年4月に最新版2.0を公開し、OpenAIの動画生成モデル「Sora」をいくつかの指標で上回る性能（文脈応答性、映像・動作品質など）を達成したとされています²⁴。このモデルでは文章から物理世界を模したリアルな映像や想像上のシーンまで高品質に生成でき、ユーザーが画像などマルチモーダルな入力アイデアを伝えることも可能です²⁵。映画監督の薛曉路氏は「脚本執筆から絵コンテ制作、映像生成・編集まで従来は時間がかかった作業がAIで迅速化し、制作コストも大幅に削減されている」とコメントし、**映像・コンテンツ制作プロセスの革命**を指摘しました²⁶。

こうした生成AIブームの背景には、**オープンソース戦略**による開発コミュニティの活性化と、人材・データの集積が挙げられます。中国では商湯科技の「OpenIDEA」計画や百度の「飛槩PaddlePaddle」など各種オープンソースAIプラットフォームが整備されており、北京智源研究院のDeepSeekなど国産モデルの公開も相次いでいます²⁷²⁸。Global Timesによれば「中国はオープンソース型のAIアプローチで『中国の叡智』を世界に発信しつつあり、DeepSeekや阿里巴巴（アリババ）の公開モデルがその勢いを牽引している」との専門家見解もあります²⁸。一方で、大規模モデルの訓練には莫大な計算資源が必要なため、高性能チップの確保や電力消費の課題も顕在化しています。中国政府系専門家は「ビデオ生成AIの訓練は**巨大な計算能力と高品質データ**を要する。中国企業は独自の**AI半導体チップや基盤ソフト**の開発、基礎研究投資を強化し、生成AI競争で海外に追いつくべきだ」と提言しています²⁹。実際、国内GPUメーカーの摩爾線（Moore Threads）はWAIC会場に**1,024枚の自社製GPUを搭載した巨大演算ラック**を展示し、トランスフォーマー系モデルの学習能力をアピールしました³⁰。しかしその消費電力は中規模都市の全街灯に匹敵するといひ³¹、高性能AIの大衆化にはエネルギー効率やインフラ整備も大きな課題です。

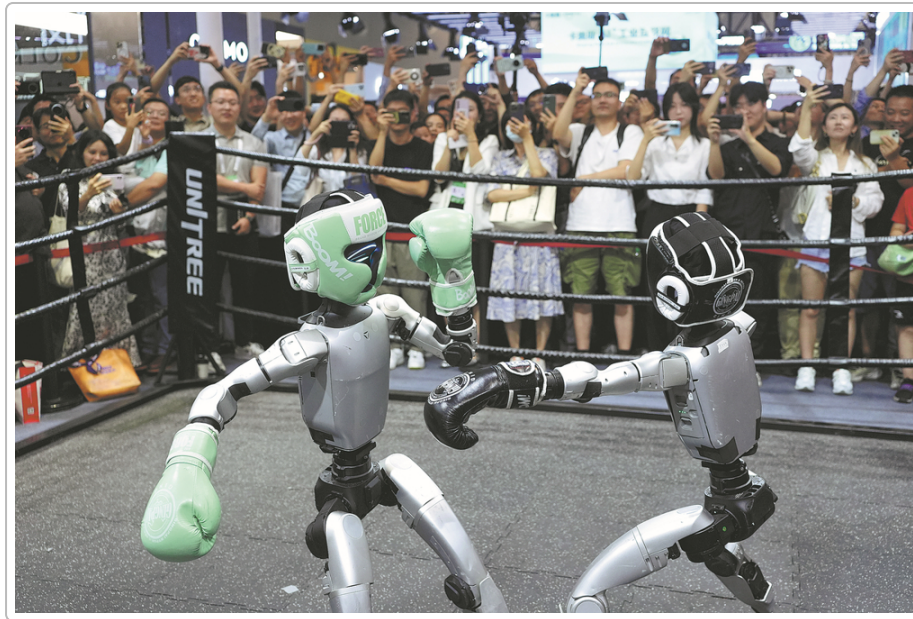
総じて、**生成AI**分野では中国のテック大手各社が競い合いながら**多様な分野のモデルを開発・改良**し、市場投入を加速しています。中国のAIモデル数は米国に迫る規模となりつつあり、UBS証券のエキスパートは「AIはテキスト・画像・音声・動画とあらゆる媒体の**コンテンツ大量生産を可能**にしつつあり、とりわけ中国のモデルはAI動画生成で早くも**成功の兆し**を見せている」と分析しています³²。またWIPO（世界知的所有権機関）の報告によれば中国は世界のAI関連特許の**約6割**を占め³³、生成AIを含む**デジタルコンテンツ産業のイノベーション**で世界をリードする可能性を示しています³⁴。

ロボティクス・具身知能

ロボティクス（ロボット工学）もWAIC2025で大きな注目を集めた分野です。特に、人型など複雑な環境で作業する「**具身知能（Embodied AI）**」の開発・商用化が中国企業によって加速していることが示されました。北京のスタートアップGalbot（ギャルボット）は、**シミュレーション-実世界移行（Sim2Real）技術**によってロボット学習の高コスト問題を克服し、大規模展開への道を切り開いています³⁵。共同創業者の張智政氏によれば、Galbotは「**大規模かつ高品質の合成データ**による事前学習と、最小限の実世界データによる繊細な微調整」を組み合わせる独自パラダイムを確立し、現実環境での膨大なデータ収集に頼らずにロボットの汎用スキル習得を実現しました³⁶。仮想環境で習得したスキルを**意味的な再ラベリング程度で実世界**

に転移できるため、従来ネックだったデータ不足問題を解消しつつ訓練効率と汎化能力を飛躍的に向上させています³⁷。

この手法によりGalbotの人型ロボットは既に北京の10以上の薬局で自律稼働しており、棚から医薬品を取り出して夜間配送員に受け渡すといった複雑作業を完全無人でこなしています³⁸。「今年末までに全国100店舗への導入を目指す」と同社は述べており³⁹、サービス業における人型ロボットの商用展開が現実のものとなりつつあります。また産業分野でも独Bosch社との合弁で工場向けの人型ロボット実装を進めており、精密組立など高精度（99.9%～99.99%要求）の製造工程への応用を目指しています⁴⁰。張氏は「2年以内に工場への人型ロボット商用配備が可能」と展望しており⁴¹、AIロボットの大規模な産業導入が目前に迫っていることを示唆しました。



図：WAIC2025に登場した人型ロボットのボクシング競技（中国のUnitree Robotics社によるデモ。多くの来場者が見守った）⁴²

中国のロボット企業はハードウェア（駆動技術）とAI知能の融合により差別化を図っています。杭州に拠点を置くDeepRobotics（宇樹科技）は四足歩行ロボットで国内市場シェア80%を持つと言われますが⁶、WAICでは車輪と脚を併せ持つ新型ロボット「Lynx（山猫）M20」や初の人型ロボットを発表しました。Lynxは高所の送電線点検など極限環境下の産業巡検を想定した設計で、会場では電力設備点検シナリオを再現し自律作業をデモしています⁶。また人型ではないものの、外骨格ロボットの分野でも上海のULS Robotics社が展示を行い、作業者の身体能力を拡張するスーツ型ロボットの展開事例が紹介されました⁴³。ULS社は2003年創業の老舗ですが、同社幹部は「上海には大モデル、計算資源、言語データを提供してくれるパートナー企業が豊富にあり、また実証実験のシナリオや産業チェーンが整っているため、AIロボ企業のイノベーションには極めて肥沃な土壌だ」と述べています⁴⁴。実際、中国政府は「AI+」施策の一環として各地にAI実証のための場を用意しており、工信部（MIIT）は11ヶ所の国家AIイノベーションパイロット区を設立して地域ぐるみでAI実装を推進中です⁴⁵。さらに「具身型AIロボット」「ヒューマノイド（人型）ロボット」など次世代技術について、中央と地方が協力して製造業イノベーション拠点を建設し、関連産業クラスターの形成を図っています⁴⁵。

市場規模の見通しも明るく、中国における人型ロボット市場は2024年の約27.6億元から2030年には1,000億元（約2.0兆円）超へと爆発的成長が予測されています⁴⁶。グローバルでも2035年に約1,540億ドル（約23兆円）規模に達するとの予測もあり⁴⁷、中国はこの新興市場をリードすべく官民で投資を拡大しています。WAICでは他にも、中国の新興企業Unitree Robotics（優必選）が人型ロボット同士のボクシング試合を披露

し来場者の関心を集めたほか⁴²、様々な移動・サービスロボットが**将来の生活インフラ**として紹介されました。「AI+ロボット」による**具身知能システム**は、センサーで環境を感知し（eyes）、AIモデルで理解・判断し（brain）、ロボットアームや脚部で物理世界に働きかける（hands）という**フルスタック統合**が重要であると指摘されており、WAIC出展企業も各社がこの“三位一体”の高度化にしのぎを削っています^{48 49}。ある専門家は「WAIC2025では**具身知能システム**が特に注目される。物理世界を理解・推論し対話できるこれらのシステムは、次世代AI開発で中国が先手を取るための焦点である」と述べています⁵⁰。

スマートシティと交通（都市型AI応用）

都市インフラや交通分野における**スマートシティ型AI応用**も、WAIC2025の重要テーマとなりました。中国政府は「**AI+都市**」戦略を推進しており、李強総理も「AIの深い実装例として**自動運転やスマートシティ**を挙げ、AIを現実社会に広く溶け込ませるべきだ」と強調しています⁵¹。WAIC会場でも、都市生活を便利・安全にするAI技術が多数紹介されました。たとえば騰訊（テンセント）は**モジュール式の具身知能プラットフォーム「Tairors」**を展示し、都市環境で活用できるロボット技術の開発キットを公開しています⁵²。AIによる**災害予測・防災**の取り組みも注目され、中国企業が開発した**多災害早期警戒システム「MAZU-Urban」**は国際協力プロジェクトとしてWAICで紹介されました。このシステムは豪雨や地震など複合災害のリスクをAIが解析・警報するもので、**ジブチやモンゴル**に無償提供されており、AIを用いたグローバル公共財として評価されています⁵³。またCITIC集団（中国中信集団）は**スマートシティ関連の最新成果**を展示し、傘下企業がモロッコで運営するアルミホイール工場が**アフリカ初の「ライトハウス工場」**（世界経済フォーラムが選出する先進的スマート工場）に認定された事例を紹介しました⁵⁴。この工場では原材料投入から製品梱包まで40以上のAIデジタルソリューションを実装し、設備稼働効率17%向上・労働生産性27%向上・不良率31%低減といった成果を上げています⁵⁴。さらに、仏シュナイダーエレクトリック社が中国のデジタル企業（上海発のDigital Nail社や遷知科技など）と共同開発した**産業AIソリューション**も展示され、**デジタルプランニングやプロセス産業向けデジタルツイン技術**などが披露されました⁵⁵。シュナイダーのAI責任者フィリップ・ランバック氏は「中国がAIで高品質発展を牽引する姿勢は、当社の持続可能でグリーンな生産性向上ビジョンと合致する。中国の有力企業と組むことで世界最先端の知見を中国にもたらすと同時に、中国の活気あるAIエコシステムとイノベーションを世界へ輸出している」と述べ⁵⁶、「**中国発、中国で、そして世界へ**（in China for China, in China for the world）」という協調モデルでスマートシティや産業分野のAI活用を進める考えを示しました。

交通分野では、**自動運転（Autonomous Driving）**関連の展示や議論も行われました。WAICのグローバルAIガバナンス行動計画でも重点分野の一つに「**自動運転**」が挙げられ、AIによる交通革新と都市モビリティ向上が期待されています⁵⁷。例えばアリババ系の斑馬智行（Zebra Zhixing）は自動車の**車載AIモデル「元神」**を開発しており、WAIC期間中にグローバル評価機関から分野トップの評価を得たことを公表しました⁵⁸。元神AIはAlibabaの大モデル（Tongyi等）や大量の車両データを活用し、車内音声アシスタントや自動運転モジュールに応用されているとされます⁵⁹。また百度（Baidu）や小馬智行（Pony.ai）なども中国各地で**ロボタクシーの実証**を進めており、上海市も2023年に特定区域で完全無人運転タクシーの営業を認可するなど、都市交通へのAI導入が現実化しています。WAICではこうした都市インフラ領域での**AIソリューション統合**が展示・議論され、データ連携基盤や統一規格の重要性も強調されました⁵¹。李強総理の提唱するWACO（世界AI協力機構）構想の中でも、スマートシティ分野は各国協力によるベストプラクティス共有や**相互運用性の確保**が重要課題と位置付けられています⁶⁰。都市という複雑系にAIを実装するには、市民生活への影響やプライバシー・倫理面の考慮も不可避であり、WAICでは国際連合の専門家らも交えこれら社会的側面を議論するセッションが設けられました⁶¹。

医療AI（ヘルスケア分野）

医療・ヘルスケア分野のAIは、近年やや停滞感も指摘されていましたが、WAIC2025で**華々しい復活**を遂げました。2024年頃は大手テック企業の関心が一時低下していた医療AIですが、2025年には各社がこぞって**医療AIソリューションを全面展開**し、「AI病院」のコンセプトがもはや机上の空論でないことを印象付けました⁶²。会場で見られた未来の「AI病院」の姿を例えるなら、**受付**ではアリババ系・螞蟻集団（Ant Group）の**医療AIアシスタント「AskBob（AQ）」**が患者の受付登録から検査画像読影、診察同行まで同時並行でこな

し、1億人以上のユーザーに健康管理サービスを提供している⁶³。救急外来では藍松数字科技（Lansong Digital Science）のAI「LAN-エージェント」がワンクリックで**デジタル双生ICU**（ICUのデジタルツイン）を構築し、救急車のタイヤ圧までリアルタイム監視するといった高度な救急医療プラットフォームを実現しています⁶⁴。画像診断科では聯影智能（United Imaging Intelligence）の「一胸一掃多検」（Chest One-Scan Multi-Check）エージェントがレントゲン1枚で肺結節や骨折、大動脈拡大など**73種類の胸部異常**を一括検出し、AUC（曲線下面積）94%という高精度で診断支援します⁶⁵。中医外来では智慧眼社の「弁師AI四診装置」が舌診・顔診・脈診を3分で行い、「秋は梨スープを飲むと良い」と季節の養生アドバイスまで含む体質レポートを提供します⁶⁶。院長室では新華三（New H3C）の「LinSeer ICTエージェント」が院内ネットワークから水道光熱、CT稼働状況まで**病院のインフラ全般を24時間監視**しています⁶⁷。まさにAI総合病院さながらの出展内容で、医療現場へのAI統合が具体的に示されました。

こうした展示から浮かぶ医療AIの発展トレンドとして、専門家は以下のポイントを指摘しています⁶⁸：

(1) 単一疾患特化の“小さなモデル”から、診療科全体を包括する“大きなモデル”へ：AIが熟練医のような総合判断を行う方向です。従来は肺癌検出AIや骨折診断AIなど疾患ごとにバラバラでしたが、今年のWAICでは「**専門領域エージェントの集合体**」がキーワードとなりました⁶⁹。聯影のChest Multi-Checkは73種の胸部異常を1モデルで網羅し、上海中山病院での試験運用ではレポート作成時間が8分から6分へ短縮（25%効率UP）しています⁷⁰。また上海の瑞金医院と華為（Huawei）が開発した「**RuiPath 病理大模型**」は中国で発生率の高い癌の90%をカバーし、**オープンソースで商用利用も無料提供**されています⁷¹。これは病理医の膨大なスライド読影作業を軽減し、質疑応答形式で診断結果を提示する「**病理科の天国**」を目指すものです⁷²。さらに新華三と徳生医薬の「**iMedImage 大模型**」はノーコードで微調整が可能で、地方の中小病院でも10分で「肺結節ミニ専門家」モデルを訓練できるといいます⁷³。大手各社が協力し合い**医療AI標準**を策定しはじめたことも注目されます。WAICでは中国人工知能産業連盟と中国医師協会スマートヘルス委員会が「**医療業界向け知能エージェント標準体系**」を発表し⁷⁴、科大訊飛（iFLYTEK）の医療子会社・訊飛醫療が**10のサブ標準**作成を主導するとしています⁷⁵。これは診療相談、電子カルテ生成・質控、ボイスフォローアップ、プレ診断、医療画像など各領域で標準仕様を定め、医療AIの**科学的・権威的かつ実用的な標準システム**を築く試みです⁷⁵。

(2) 単一モダリティからマルチモーダルへ：診断の「閉ループ化」：最新の医療AI競争では、一つのモダリティ（例えば画像診断）に留まらず、**音声・テキスト・画像・動画を組み合わせ**て患者状態を総合把握する方向に進んでいます⁷⁶。螞蟻集團のAskBob(AQ)は**音声・文章・画像・検査値**の混合入力を処理でき、例えば血液検査結果の写真をアップロードするとOCRで値を読み取り、AIが推論して「白血球値が高いのは体内でセキュリティ警報が鳴っている状態です」といった**平易な説明**まで返します⁷⁷。NeurOS社の「Demon Mirror」は30秒の顔スキャンで皮下血流を読み取り**18項目の健康指標**を予測します。展示で試した女性参加者は「軽いクマがありますー夜更かしを控えましょう」と診断され、苦笑いしていました⁷⁸。また上海音楽学院は「**音楽ヒーリングカプセル**」を開発し、脳波（EEG）・表情感情・立体音響を組み合わせた**音楽処方**で鬱・不眠・高血圧の改善を図る試みを紹介しました。5分間のデモで「身体と心に日光が差し込むような」効果を参加者が感じるなど⁷⁹、**感性面へのAI活用**も注目されています。

(3) 病院から飛び出すヘルステック：デジタルヘルス体験ポッド：今年の各社の目標は「**病院を分解し、そのサービスを患者の自宅まで届ける**」ことでした⁸⁰。京東健康（JD Health）は**500以上の専門医AIアバター**を公開し、深夜2時でも患者がスマホで「北京協和病院の甲状腺専門AI医師」に相談すれば、出前より速く回答が来ると宣伝しました⁸¹。新華三は24時間稼働の「**デジタルヘルス体験ポッド**」を披露し、350以上のAI医師アバターが27言語に対応、食事写真でカロリー自動算出や検査レポート読解、オンライン処方まで行います。まさに無人コンビニならぬ「**無人診療所**」です⁸²。さらに広西医科大学附属医院は「**臻善AIデジタルドクター**」を出展し、中国語・ベトナム語・ラオス語・タイ語で遠隔診療が可能な多言語AI医療サービスを紹介しました⁸³。これは東南アジアの患者がスマホ一つで南寧（中国）にいる専門医とビデオ通話できるので、通訳費も節約できるといいます⁸⁴。このように、AIによって医療サービスの**地理的・時間的制約を超えた提供**が現実化し始めています。

(4) 乱立期から選別期へ：ハード・データ・現場シナリオの「三位一体」：WAIC会場を見渡すと、かつて肺結核検出アルゴリズムで資金調達したような**スタートアップ**が姿を消し、代わりにハードウェアやプラットフォームを持つ**大手プレイヤー**（アリババ、華為、新華三、京東、Ant等）が中央を占めていました⁸⁵。理由として、**計算資源・データ量・実運用ノウハウ**の3点で中小には参入障壁が高まったことがあります³⁰。例えばAIモデルの訓練コストは莫大で、Moore Threadsの展示したようなGPU 1,024枚の巨大装置を運用するには電力など相当の投資が必要です³¹。また高精度AIには数千～数万件規模のデータが不可欠ですが、聯影医療は4,000病院から画像データを集めて73種の異常を検出するモデルを構築したのに対し、小規模企業では7種の異常データすら満足に集められないでしょう⁸⁶。さらに現場展開には、AIモデルの訓練・デプロイ・保守を**ワンストップで提供**できる仕組みが求められます。新華三の「iMed MaaS」プラットフォームはそれを実現し、病院が専門エンジニアを雇わずとも10分でAIを導入できる環境を整えています⁸⁷。結果、**医療AI市場は淘汰が進み、生き残るのは巨大資本と現場接点を持つ企業のみ**となりつつあります⁸⁵。実際、科大訊飛は2023年以降にCAICT（中国情報通信研究院）等と協力し「医療大模型の技術標準体系」構築を主導しており⁸⁸、自社の**Spark医療大模型**は中国初の医療AIモデル技術評価試験に合格しています⁸⁹。上海市もデジタルトランスフォーメーション戦略の一環で**スマートヘルスケア**を優先分野と位置づけ⁹⁰、インフラ整備やエコシステム醸成を進めています。WAIC会場の訊飛医療ブースでは、プライマリ・ケア（基層医療）、公衆衛生管理、医用画像といった**具体的な場面別AIソリューション**が提示され、既に社会に実装されつつあるAI医療の姿を示しました⁹¹。

以上のように、中国の**医療AI**は2025年に入り再び活況を呈し、「**AI総合診療医**」とも言える大規模モデルと、病院外で患者を支える遠隔AIサービスの両面で飛躍的發展を遂げています。テック巨頭の参入と官主導の標準化・規制整備によって、AI医療は実験段階から**産業化・大規模普及**のフェーズに移行しつつあります⁹²。実際WAICの展示内容も短期間で現実世界へと転用され始めており、「今後12ヶ月でこれらのAIが病院や家庭に浸透していくだろう」と業界関係者は予測しています⁹³。

教育AI（次世代教育への活用）

教育分野もAIの活用が期待される重要領域です。中国政府は「**AI+教育**」戦略を推進しており、WAICでも教育AIに関するセッションや展示が見られました。グローバルAI行動計画では**教育**はAI展開の重点分野の一つに位置付けられ⁵⁷、各国が協力して教師支援や個別学習最適化にAIを役立てる姿が目標とされています。例えば科大訊飛は以前からAIを活用した**自適応学習プラットフォーム**を提供しており、WAIC併設フォーラムでも「AI時代に教育で大切な人間の資質とは？」といったテーマが議論されました⁹⁴。中国企業は英語教育やプログラミング教育において**AIチューター**や対話型学習アプリの開発を進めており、一部は既に学校現場やオンライン教育サービスで活用されています。またアリババ傘下の螞蟻集団は、インドネシアなど海外で**AIを用いたデジタル学習支援**を提供する計画を表明しています²¹。こうした**対外協力**もあり、中国発の教育AI技術がグローバルに展開されつつあります。

教育AIの具体例としては、生徒一人ひとりの学習進度や弱点をリアルタイム分析し、**最適な問題を提案**するAI問題集、音声認識で発音矯正を行う英語学習AI、さらにはVR/ARと組み合わせて**仮想実験**や歴史体験を可能にするシステムなどが研究開発されています。WAICの展示ブースでは、子供向けプログラミング教育ロボットやAI教材の展示もあり、子供たちが興味を持って触れる姿も見られました。中国は2019年に**中高生向けAI教材**を全国で導入し始めるなど、基礎教育段階からAIリテラシー育成に注力しています。教育部は「**スマート教育**」政策を掲げ、教育コンテンツのデジタル化とパーソナライズ化をAIで実現する方針です。今後は生成AIを活用した作文添削や対話型で**知識を教えるAI家庭教師**が普及すると期待されますが、その一方で偏向や誤りのない学習データ整備、教師の役割再定義、評価方法の見直し等、乗り越えるべき課題も議論されています。

WAIC2025では、教育分野のAI活用に関する具体的な発表は他分野に比べ少なかったものの、「**AI時代の教育**」をテーマに専門家が議論する場が設けられ、人間にしか培えない創造性や共感力を如何に育むか、AIは教師の負担軽減や学習機会拡大にどう寄与できるかが検討されました。また、UNIDO（国連工業開発機関）が発表した**グローバルAI製造センター構想**の中では、発展途上国におけるAI人材育成や教育支援も盛り込ま

れており⁹⁵⁹⁶、教育AIは**国際協力の新たなフロンティア**とも位置づけられています。中国企業が持つ**世界最多のインターネットユーザー基盤**やソーシャルメディアデータは、AI教育応用の肥沃な土壌であり³⁴、この強みを活かして世界的な教育格差是正や人材育成に貢献できるかが今後の焦点となるでしょう。

主要企業・研究機関の発表動向

WAIC2025には中国AI業界を牽引する**大手テック企業から新興スタートアップ、研究機関**まで数多くが参加し、最新の成果を発表しました。ここでは特に注目すべき企業・団体の動向を概観します。

- ・**商湯科技 (SenseTime)**：コンピュータビジョン分野の独壇場である商湯は、WAICで自社の**大規模モデル群「SenseNova」**の最新版V6.5を発表しました⁹⁷。同社CEOの徐立氏は「10年にわたるAIの歩みで得た知見を踏まえ、企業顧客への実装や海外展開にも注力する」と語り⁹⁸、**多モーダルAIと産業応用**に軸足を移す姿勢を示しています。また商湯は**知能ロボット基盤「商湯機器人プラットフォーム」**も発表し、知覚・ナビゲーション・対話を統合した次世代ロボット開発環境を提示しました⁹⁹。このようにソフトウェアとハードウェアの両面で提供力を強化し、**AIソリューションの総合ベンダー化**を図っています。
- ・**テンセント (Tencent)**：SNS・ゲーム大手のテンセントは、自社開発の大規模モデル「**混元 (Hunyuan)**」シリーズを強力に推進しています。WAICでは先述の**Hunyuan 3D世界モデル**を公開するとともに、言語・視覚統合モデルや**医療対話モデル**など各種AIモデルの発表も行いました。特に混元3Dは**オープンソース**で公開され¹⁰⁰、テンセントがAIコミュニティに開かれた戦略を取っていることを象徴しています。テンセントは「AI事業を次の収益の柱に育てる」と明言しており¹⁰¹、自社クラウド基盤やWeChat (微信) など既存プラットフォームとAIを融合させたサービス開発を加速しています。また自社のゲーム・CGノウハウとAIを組み合わせ、**メタバースやデジタルツイン都市**への応用も模索中です。
- ・**アリババグループ**：WAICではアリババ本体の存在感は目立ちませんでしたが、関連会社である**螞蟻集団 (Ant Group)**や**斑馬智行**などが積極的に参加しました。螞蟻集団は前述の医療AI「AskBob (AQ)」を展示し、**医療・金融領域でのAI活用**をアピールしました⁶³。同社はQRコード決済のように「**AIを生活インフラ化する**」ことを掲げており¹⁰²、特に医療では提携先の阿里健康や医療機関と連携しつつ、**100万人規模の臨床データ**に基づく精密なヘルスケアAIサービスを提供しています。また斑馬智行は上記の**車載AI「元神」**を開発し、コネクテッドカー領域でAIソリューションをグローバル展開中です¹⁰³。アリババグループ全体では、クラウド部門の阿里雲 (Alibaba Cloud) が対話型LLM「**通義千問 (Tongyi Qianwen)**」を2023年に発表しオープンソース化するなど、**基盤モデルの開放**にも積極的です²⁸。これらのモデルはアリババ傘下の各サービス (電子商取引、物流、エンタメなど) で活用が進んでおり、WAICでも直接的な発表はないものの中国のAI産業を下支えする重要プレイヤーです。
- ・**百度 (Baidu)**：検索大手の百度は自社開発のLLM「**文心大模型 (ERNIE)**」シリーズを擁し、2023年からチャットボット「**文心一言 (ERNIE Bot)**」を提供開始するなど先行していました。WAICでは百度自体の大きな発表は報じられていませんが、**オープンソース深層学習基盤「飛漿 PaddlePaddle」**がBRICS AIフォーラムで注目されました¹⁰⁴。百度飛漿担当者の張潤氏は「オープンソースAIは技術の包摂的發展に不可欠であり、百度は大モデルを積極的にオープン化し広範なユーザーにAI能力を拡張している」と述べています¹⁰⁵。また金融分野では、百度と中国工商银行などが協力した金融向け大模型や、自動運転ではApollo計画の継続進展などが背景にあります。百度は政府との連携も深く、北京のAI集積区 (**海淀パーク**など) で主導的役割を果たしており、**研究開発と応用展開の双方**に寄与しています。

- ・**科大訊飛（iFLYTEK）**：音声認識のトップ企業である科大訊飛は、前述の**Spark大模型**で注目されました。特に医療特化モデルでは**中国初の公式評価通過**という成果を上げ⁸⁹、その信頼性をアピールしています。また上海市と連携し、医療AI標準策定や**スマートヘルスケア実証**を主導するなど政策面でも存在感を示しました^{75 90}。さらにiFLYTEKは**教育AI**や**翻訳AI**でも知られ、WAICでは各国語学習プラットフォームや音声対話端末も展示しました。同社は**官民の橋渡し役**としても機能しており、中国情報通信研究院(CAICT)などと共同研究を進めています⁸⁸。AI基礎技術から応用サービスまで幅広く手掛ける点が特徴です。
- ・**華為技術（Huawei）**：通信機器大手の華為は米制裁下でもAI関連に注力しています。WAICでは上海瑞金医院と組んだ**病理AIモデル「RuiPath」**の発表に関与し⁷¹、**オープンソースで誰もが利用可能な高度AI**という方向性を強調しました。華為は自社製AIチップ（Ascendシリーズ）やAI加速フレームワーク「MindSpore」を擁し、エッジデバイスでのAI処理（端側AI）にも強みを持ちます¹⁰⁶。例えばOPPOと協力して**スマホ上で大モデルを動作させる試み**や¹⁰⁶、自動運転向けの**MDC（モバイルデータセンター）プラットフォーム**提供なども進めています。WAICで直接的な製品展示は限定的でしたが、産業界との協業（例：前述の病院、各地政府のスマートシティ計画）を通じ**裏方でAIインフラを支える姿勢**が見られます。
- ・**新興スタートアップ**：上記大企業以外にも、多くのスタートアップがWAICに出展・登壇しました。前述の**Galbot**はその代表例であり、人型ロボ分野で巨額の資金調達（CATLなどから24億円）を成し遂げています¹⁰⁷。他にも、**Neurobo**（上海のAI×アニメ領域の新興企業）は**対話型スマートドール**を開発し、若者のキャラクター愛好に応えるユニークなAI商品を披露しました^{108 109}。Neuroboの創業者・郭怡潔氏は日本でロボット学を修めた経歴を活かし、「**仮想と現実のギャップを埋め、ファンに新しい自己表現手段を提供したい**」と語っています¹¹⁰。同社はセンサーや音声対話技術で持ち主の行動や感情を読み取り、状況に応じた発言をする**文脈対応インタラクション**を実現しており、ファンコミュニティの期待に応えるプロダクト設計で成功を収めつつあります^{111 112}。また**Moore Threads**のようなAI半導体スタートアップも存在感を示しましたし、**StepFund**や**MiniMax**など生成AI系の新興企業もセッションに参加しました¹¹³。
- ・**研究機関・アカデミア**：中国科学院（CAS）や清華大学などの研究者もWAICに参加し、最新研究成果や見解を披露しました。たとえばCASの王磊研究員（兼Wenge Tech会長）は「中国の起業家たちはDeepSeekモデルのオープンソース化など多くの貢献を行い、AIの民主化に寄与している」と語り¹¹⁴、オープンイノベーションの重要性を強調しました。また**デロイトAI研究所**の范ロマン氏は「今年のWAICは最先端技術の展示だけでなく、**産業エコシステム再構築の始まり**を示した」と述べ、AIが**ラボ実験から産業化・スケールアップの臨界段階**に入ったと分析しています^{115 116}。さらに、各大学やスタートアップ支援プログラムもWAICに合わせ成果を発表し、例えば清華大学発のロボティクス研究チームが**ヤン（燕）2.0**という非Transformer型の**新アーキテクチャ大モデル**を披露し注目を浴びました^{117 118}。総じて、**産学連携**が中国AIの特徴であり、政府系の中国信息通信研究院（CAICT）や中国人工智能産業連盟(AIIA)も標準化やガイドライン策定で企業と協力しています⁸⁸。

以上のように、WAIC2025には多彩なプレイヤーが集結し、**大企業の競合・協調、新興勢力の台頭、官産学の連携**といった中国AIエコシステムの縮図が示されました。国内外の**ビッグネーム**（TeslaやSiemens、Googleなど）も多数参加し¹¹⁹、中国のAI市場を狙う動きを見せています。NVIDIAの黄仁勳CEOも直前に訪中し「**中国の技術と市場に敬意**」を表明するなど¹²⁰、国際企業も中国AIとの連携強化に動いています。中国AI企業は今や「世界のAI業界に無視できない存在」であり、今回のWAICでその実力と野心を内外に示したと言えるでしょう。

政府・自治体の支援政策と戦略

中国におけるAI産業の飛躍的發展を支えているのは、中央政府および地方自治体の積極的な政策支援と戦略的な産業育成ビジョンです。WAIC2025でも各種の**政策発表**や**計画発表**が行われ、官民連携によるAI推進の姿勢が鮮明になりました。

上海市の政策発表：開催地である上海市は、中国AI戦略の最先端都市としてこの大会を利用し、**新たな支援策**を打ち出しました。まず閉幕日の7月28日、上海市は「**人工知能応用拡大に向けた12項目の措置**」を発表しました¹²¹。これは市経済信息化委員会が策定した文書で、主な内容は「**インテリジェント・コンピューティングコストの低減**」「**大規模AIモデルの応用拡大**」「**高品質学習データ取得の支援**」「**コア技術のブレークスルー推進**」などです¹²²。例えば、企業がAIモデルを訓練する際のクラウド計算資源費用を補助し、公共データの開放を進めて訓練データを充実させ、さらにAIチップや基盤ソフトウェアなどの国産技術開発を後押しする施策が盛り込まれています¹²²。同日には「**上海AI産業ベンチャー投資基金**」（規模30億元）の設立も発表されており⁸、スタートアップへの資金供給とエコシステム形成に力を入れる姿勢が示されました。上海市副市長の陳杰氏は「今年のWAICでは昨年の2倍となる3,000以上の最先端プロダクトが展示され、100以上が国内外初公開となった。展示面積も4割拡大し過去最大となり、AI投資の熱気を物語っている」と述べています²。また会期中に**300件超・総額162億元の商談成立**という成果にも触れ、「AI応用の市場が確実に拡大している」と自信を示しました⁷。上海は2019年に**国家新一代AIイノベーション開放パイロット区**に指定されて以来、AI人材誘致や研究拠点整備を進めており、今回の施策もその延長線上にあります。

中央政府の戦略（ガバナンスと協力）：WAICは国務院や科技部、工信部など中央政府も共催しており、国家レベルのAI戦略発信の場ともなりました。冒頭、**李強 国務院総理**（元上海市長）が開会式に出席し演説を行ったことは大きな注目を集めました¹²³。李総理は「**AIは人類発展の新フロンティア**であると同時に、未曾有のリスクと課題をもたらす。世界的な知能化の波が押し寄せ、AIは社会経済の新たなエンジンとなりつつあるが、その発展と安全のバランスに世界が直面している」と指摘しました¹²⁴¹²⁵。その上でAIを**公共財**として全人類に利益をもたらすため、中国として以下の3点を提案しました¹²⁶：

- ・**開放性と包摂性：**AIの恩恵を広く共有すること。既存のAI成果を生かしつつ開放・共有・平等なアクセスを重視し、とりわけグローバルサウス（南半球の途上国）がAIの利点を享受できるように中国は経験や技術を提供していく¹²⁷。
- ・**協調的イノベーション：**基礎科学研究や産学官の交流を深め、AIのブレークスルーを共同で目指すこと。中国は各国と**技術突破やオープンソースの推進**で協力し、AI発展の新高みに共に登りたい¹²⁸。
- ・**集団的ガバナンス：**AIの発展が人類に資する方向に進むよう国際協調でガバナンス体制を整えること。発展と安全のバランスをとり、世界共通のAI規範とルールを早期に作るべきで、中国は多国間協力に積極参加し「**世界AI協力機構**」の設立を提案する¹²⁹。

李総理のスピーチは、**国連のグテーレス事務総長**からも言及され、約30ヶ国・地域から集まった1,500名超の政府・企業・研究者代表¹³⁰に強い印象を残しました。李総理の出席自体、WAICが中国政府にとってAI戦略上きわめて重要な場であることを示しています。また同時に発表された「**全球AIガバナンス行動計画**」は、中国が主導して策定した包括的提言であり、前述のグローバル協調の原則に基づき**13項目の行動**が掲げられました¹¹。その中には「**技術革新と国際協力推進**」「**データセンターや計算インフラの整備**」「**製造・貿易・物流・医療・教育・農業・自動運転・スマートシティ等へのAI導入促進**」「**データの自由かつ秩序ある流通推進**」「**プライバシー・知財権の保護強化**」「**オープンソース協力と開発途上国へのAIアクセス拡大**」などが含まれます¹¹¹³¹。この計画は多くのWAIC参加者から支持を集め、例えばEY（アーンスト・アンド・ヤング）のGary Gu氏は「中国は膨大なデータ資源と多様な応用シナリオ、旺盛な市場需要を有し、AIモデルの訓練・展開に肥沃な土壌を提供している。こうした基盤は**グローバル協力とスケーラブルなイノベーション**の強固な土台となる」と評価しました¹³²。

規制と標準化：中国政府はAIの発展促進と同時に、規制枠組みの整備にも力を入れています。2023年には生成AIに関する**暫定管理規定**を施行し、違法・有害情報拡散の防止やデータセキュリティ確保を定めました。WAIC期間中にも、**国家インターネット情報弁公室（CAC）**が「**個人情報処理が100万人超の企業に対しデータセキュリティ審査の届出を義務付ける通知**」を発出しており¹³³、AI企業もプライバシー保護と法令遵守が一層求められています。科大訊飛などが主導する**医療AI標準**の策定も、政府が裏付ける形で進行しています⁷⁴。さらに工信部の謝少鋒総工師はWAIC関連記者会見で、各省市と連携して**11ヶ所の国家AI創新試験区**を設立したことや⁴⁵、AIロボットや次世代技術の**製造業イノベーションセンター**を建設したことを明らかにしました⁴⁵。これらは国家レベルの実証区・研究拠点であり、AIの**集積クラスター形成**や人材育成を狙ったものです。また教育面では、AI人材育成のための大学・高専での**AI学科新設**やカリキュラム整備も奨励されています。

地方自治体の取り組み：上海以外の地域でも、地方政府がAI産業支援にしのぎを削っています。北京は「**中関村AI先導区**」を拡張し巨額の産業基金を組成していますし、深圳は「**鵬城實驗室**」を中心とするAI基礎研究ハブ構想を持っています。また合肥市は科大訊飛の本拠として音声AI産業集積を進め、海南省は国際AIリゾート都市構想を掲げています。今回WAICには蘇州、高雄（台湾からオンライン参加）など各地から首長・代表団が参加し、地域間のAI協力や都市間連携も議論されました¹³⁴。例えば上海と香港が「**AI協力覚書**」を締結し、香港パビリオンが初出展するなど¹³⁵、中国国内のみならず**大湾区エリア**での広域連携も見られます。

総じて、中国政府と地方自治体は**トップダウン戦略とボトムアップ実装**を組み合わせ、政策・資金・制度面からAIイノベーションを強力に後押ししています。WAIC2025はその一大宣伝の場となり、中国版「AIニューディール」とも言える積極政策のパッケージが提示されました。もっとも政府主導にはリスクも伴い、過剰投資のバブル化や非効率な重複開発を避けるため、専門家は**市場メカニズムとの調和**を訴えています。現に2021年前後にはAIチップや自動運転スタートアップへの投資が過熱し「AIバブル」との声も出ました¹³⁶。しかし現在、政府は規制と保護のバランスを取り、産業基盤づくりに注力しているようです。WAIC2025で示された政策群は、**イノベーション促進・インフラ整備・規範整備**の三位一体で中国をAI強国へ押し上げる野心を如実に表しています。

国際競争力と対外協力・対立の構図

AIをめぐる国際情勢は「協調と競争」が入り混じった複雑な様相を呈しています。WAIC2025でも、中国が直面する**米国などとの競争**と、**各国との協力**の両面が浮き彫りになりました。

米中競争と協力の模索：開幕式における注目セッションの一つが、マイクロソフト元副総裁の**沈向洋（Harry Shum）氏**とGoogle元CEOの**エリック・シュミット氏**の対談でした⁴。かつてシリコンバレーの巨頭企業を率いた二人は「AI時代の未来を決めるのは、国家間の**競争か協力か？**」というテーマで経験を語り合いました¹³⁷。シュミット氏は、自身がGoogle経営時代にマイクロソフトやアップルと熾烈に競争したが、その競争が業界全体の進歩を促したと振り返りつつ¹³⁸、米中のAI協力について「ヘンリー・キッシンジャー博士の言葉を借りれば、**共通の目標**があれば合意に達することも可能だ」と述べました¹³⁹。米中関係は現在困難な状況にありますが、シュミット氏は「米中国交正常化はゼロから信頼を築いた例であり、AIの諸問題も同様に**コンセンサス構築**で乗り越えられる」と前向きな見解を示しました¹⁴⁰。具体的には「AIが武器を制御するか、自ら自己複製し自律学習するかといった**重要論点**は率直に話し合い、明確化すべきだ」と指摘し¹⁴¹、AI安全保障の分野で対話の必要性を強調しました。またシュミット氏は「中国のAI分野におけるここ2年の顕著な成果は賞賛に値する。米中が協力して世界の安定を維持し、人類がAIツールを制御できるようにすべきだ」と述べ¹⁴²、米国側から見ても中国のAI進歩を無視できないことを認めました。

沈向洋氏とシュミット氏の対話は、**ルールなきAI開発競争**という現状において「誰がどのようにAI技術の限界線を定めるのか」が鍵であり、その過程は「価値観で明確な合意をした上での**国家間協力**によってのみ成し遂げられる」と結論づけられました¹⁴³¹⁴⁴。シュミット氏はAIガバナンスの核心問題は「価値」であると

し、米中間ではすでに**コミュニケーションの枠組み**がいくつか存在するが、「現時点ではAIにルールを完全に守らせる方法が無い」と課題を述べました¹⁴⁵。また彼は「中国の主要なAIモデルの多くが**オープンソース**であるのは米国とは大きく異なる」と言及し²⁷、自身がGoogleで推進したAndroidのオープン戦略を引き合いに「オープンソースは参加者を増やし技術進展に有益だが、誰でも使える分リスクもある。公開モデルは安全策が外され得るのに対し、クローズドモデルは企業が管理するので比較的制御しやすい」と指摘しました¹⁴⁶。これは、**中国が開源（オープンソース）戦略**でモデル開発を進める一方、米国はOpenAIのGPTに代表されるクローズドな開発が主流という違いを浮き彫りにしています。この違いは技術拡散や安全性の観点で両国のアプローチに優劣があり、国際ルール策定においても論点となるでしょう。

WAICの場にはアメリカのビジネス関係者も複数参加しました。テスラの代表やグーグルの研究者なども来訪し¹¹⁹、中国企業とのネットワーキングを図っています。また国連事務総長グテーレス氏はビデオメッセージで「AIのリスクに単独で対処できる国はなく、強力な**グローバル・ガバナンス**と協力が必要」と訴えました^{147 148}。このように、表向き米中対立が叫ばれる中でも、**技術者や専門家レベルでは協調への模索**が続いています。米国のNVIDIA社などは対中輸出規制の逆風下でも中国市場で商機を見出そうとしており、黄CEOが北京で「中国のAIは広大な応用空間があり、**より緊密な協力を望む**」と述べたのもその一端です¹²⁰。

中国の国際競争力：中国は国家として**AI分野での覇者**を目指すことを公言しており、2017年の新一代AI発展計画で2030年までに世界トップクラスになる目標を掲げました。その中間点である現在、中国の進捗は顕著です。前述の通りAIモデル数で世界シェア4割を超え¹⁴、AI関連特許出願でも世界1位（全体の60%）となっています³³。Accentureの調査でも**中国企業の53%がAIを複数の生産工程に統合**しており、これは世界平均を11ポイント上回ります¹⁴⁹。中国企業はAIを単なるツールではなく経営戦略の中核に据え始めており、もはや「追随者ではなく**イノベーションリーダー**である」との声も国内から上がっています¹³。実際、iFLYTEKのSparkモデルが130言語対応を実現したり²⁰、SenseTimeのモデルがGPT-4を一部指標で凌駕したと主張するなど¹⁸、技術面でも米国に肉薄または先行する例が出てきました。また**世界最大規模の内需市場**がAI普及を後押ししており、中国の膨大なユーザーデータがモデル性能向上につながるという優位も指摘されています³⁴。例えばSNS・Eコマース・モバイル決済などでのAI活用は日常生活に根付き、**AI実装社会**という点で中国は他国に先行する部分もあります。

もっとも、中国のAI発展は**アキレス腱**も抱えています。その一つが**半導体（AIチップ）**分野です。米国は2022年以来、最先端GPUの対中輸出規制を強化し、中国企業はハイエンドなAI計算に必要なNVIDIA A100/H100等を容易に入手できなくなりました。これに対抗して中国では国内チップ開発が奨励され、前述のMoore Threadsや寒武紀科技などが台頭していますが、依然トップ水準には差があります。李強総理も演説で「**高度AIへのアクセス不均衡（計算力・チップへの不平等）**は緊急の国際課題だ」と触れており⁹、暗に米国の輸出規制を批判したと受け止められました。この問題は「**AIデカップリング**」として世界の注目点であり、中国はWAICを舞台に「AIは人類共通の財産、分断ではなく連帯を」と訴えた形です^{150 129}。

対外協力の動き：競争が激化する一方で、中国は「**AIの包摂的発展**」を旗印に国際協力を推進しています。WAIC期間中に発表・締結されたものには以下のようなものがあります。

- ・**国際オープンソースAI協力イニシアティブ**：中国が各国に呼びかけて**オープンソースコミュニティの連携**を強化し、基盤モデル・データセット・開発フレームワークの共有を促す取り組み¹⁵¹。安全なオープンソース環境を整備し、重複投資の回避やリソースの有効活用、オープンソースの安全基準策定などが盛り込まれています⁶⁰。
- ・「**AI from China, Benefits the World 2025**」ケースコレクション：中国企業のAI活用事例をまとめた事例集が発表されました¹⁵¹。iFLYTEKの多言語モデルによる言語の壁の解消²⁰、CITICのモロッコ工場の成功例⁵⁴、中国×シュナイダーの産業AI協働⁵⁵などが含まれ、**中国のAI技術が如何に世界に貢献しているか**を示す内容です。
- ・**BRICS AI産業協力ネットワーク**：WAICに合わせ開催された「Win-Win BRICSフォーラム」で、BRICS諸国（ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ）が**AI産業標準の調整や政策対話、実務協力**を

行うネットワークの立ち上げが宣言されました¹⁵²。これはG7に対抗する形で新興国が連携し、**南南協力によるAI発展**を目指すものです。

- ・**UNIDO「グローバルAI製造センター・オブ・エクセレンス」構想**：国連工業開発機関(UNIDO)は製造業へのAI普及を後押しするため各国に**センター・オブ・エクセレンス**を設けると発表しました⁹⁵。特に途上国のデジタル化促進が目的で、中国はエチオピアなどアフリカ支援を積極展開中です。UNIDO担当者のJason Slater氏は「中国はアフリカでセンター設立、人材育成、現地イノベーション支援に努めており、最も必要とする人々にAIの恩恵を届けている」と賞賛しました⁹⁶。
- ・**世界AI協力機構(WACO)構想**：前述の李強総理提唱による新国際組織で、上海に本部設置が予定されています¹⁵³。正式設立には議論が必要ですが、**AI版の国際機関**として各国政府・企業・研究者が参加する枠組みを目指しています。

これらの動きから、中国は国際舞台で「**AIの民主化・包摂性**」をリードし、自国のAI技術や経験を輸出することでソフトパワーを高めようとしていると読み取れます。シュミット氏も「**中国と米国は協力して人類がAIを制御できるようにすべき**」と述べた通り¹⁴²、グローバル課題に対処する上で中国AIの力が不可欠になりつつあります。しかし欧米からは、中国国内の人権・監視技術へのAI利用などを懸念する声も根強く、価値観の相違が協力の障壁となる可能性も指摘されています。WAICでは**AI倫理・ガバナンス**も大きなテーマで、2024年ノーベル物理学賞受賞者のジェフリー・ヒントン氏が「**AIシステムを人類の利益に沿うよう制御することが人類史上最大の課題だ**」と警告し¹⁴⁷、「虎の子(AI)は大きく育つ前にしつけをする必要がある。一国ではリスクに対処できず、**国際協力が不可欠だ**」と述べました¹⁵⁴。このように基調講演やセッションを通じて、**AIの国際協調の必要性**が繰り返し強調された点はWAIC2025の特徴でした¹⁵⁵¹⁵⁶。

総じて、**国際競争力**の面では中国AI産業は量・質両面で台頭し「AI強国」に近づきつつあるものの、米国との技術摩擦や価値観ギャップという課題も抱えています。一方で**対外協力**の面では、中国は積極的に多国間イニシアティブを提唱し、自国の経験をグローバル・サウスに共有する姿勢を打ち出しました¹⁵⁷¹⁵⁸。今後、世界のAI覇権争いは一層激化する可能性があります。その中で中国が**協調路線**を取るのか、あるいは独自圏域を築くのか注視されます。WAIC2025はその両面が交錯する舞台となり、中国のスタンスが「競争しつつ協調も辞さない**融合戦略**」であることを示したと言えるでしょう。

社会実装に向けた課題と現状

AI技術の発展が目覚ましい一方で、**社会への実装(Societal Deployment)**には様々な課題が伴います。WAIC2025でも、AIを現実のビジネス・生活に統合する上での**チャレンジ**や現在の取り組み状況が議論されました。以下、主要なポイントを整理します。

1. 実験室から産業現場へ：AIは今や研究段階を超え、多くの分野で**本格導入フェーズ**に入りつつあります。デロイトの専門家は「AIは**ラボの実験から産業化・規模拡大への重要局面**に差し掛かっている。様々な業種にAIが力を与える広大な展望が見えてきた」と指摘しています¹⁵⁹。実際、アクセンチュアの調査データでも、中国企業の約**53%がAIを活用して生産工程の連携・統合を行っており**（世界平均より11ポイント高い）¹⁴⁹、AIが企業戦略に深く組み込まれ始めています。例えば製造業では、生産ラインの検品・需要予測・在庫管理にAIを使い効率化したり、流通業ではAIが発注や配送ルートを最適化するなど**業務プロセスの自動化・高度化**が進行中です¹⁶⁰。WAIC会場でも各業界の**AI導入事例**が多く紹介され、企業経営者同士の意見交換も活発に行われました。ある中国スタートアップCEOは「AI製品のユーザーインタラクションやデリバリーに関する実践的討論ができ、自社の方向性が正しいか確認できた」と語り¹³、WAICの場が**知見共有と軌道修正**に役立ったと述べています。

2. 技術インフラとコスト：AIの社会実装には**計算インフラとコスト**の問題がつきまといまいます。高性能GPUやTPU、膨大なストレージを備えたデータセンターは必須ですが、中国は米国の先端チップ規制により輸入に制約があります。そのため、国産チップ開発や算力ネットワークの整備が国家プロジェクトとして推進されています。中国政府は「**東数西算**」と呼ばれる戦略で西部地域に大規模データセンターを建設し、クラウド

算力を広域ネットワークで東部都市に供給する構想を進めています。また計算リソースの効率利用も課題で、生成AIブームでは**多数の企業が重複して巨大モデルを訓練**する事態が起きました。これに対し政府や業界団体はモデルの共有や相互運用を促進する取り組みを開始し、オープンソースの推奨やデータ・モデルマーケットプレースの整備に乗り出しています⁶⁰。

コスト面では、前述のようにAI活用には**規模の経済**が働き始め、資金力の弱い企業は最新AIを扱うのが難しくなっています⁸⁵。WAICの展示からは、医療AI分野でかつて乱立した小規模スタートアップが淘汰され、大手のみが生き残っている現状が指摘されました⁸⁵。これを受けて、中国政府は中小企業向けに**AIクラウド利用券**の発行や、オープンソースモデルの公開支援などを行い、技術民主化を図っています。また「**AIパートナーシップ**」と称し、ベンチャー企業と大企業・研究機関の連携を促す取り組みも盛んです。WAICでは多くのハッカソンやピッチイベントも開かれ、若い企業がリソース豊富な企業とのマッチングを図る機会が提供されました。

3. データとプライバシー：AIの性能向上にはデータが不可欠ですが、**データ取得と活用**には法規制や倫理の課題があります。中国は個人情報保護法（PIPL）施行後、データ管理を厳格化しており、WAIC開催中にもCACが**1万人以上の個人データを扱う事業者に当局届出を義務付け**ました¹³³。企業はデータ活用とプライバシー保護の両立に腐心しています。特に医療や金融のデータは機微情報が多いため、匿名化・多元計算などプライバシー強化技術（PET）の導入も検討されています。中国AI企業はこれをビジネスチャンスとも捉え、「**データ要素の流通促進プラットフォーム**」構築が産業トレンドとなっています。例えば金融AI分野では複数銀行間でデータを保護共有する**連合学習**の実験が進められています。また国家は**公共データの開放**に注力し、2023年には政府系の交通・気象・経済データ等をAI学習用に提供し始めました。WAICでも、AI利活用のためには「**データの自由・合法・秩序ある流通**」が必要不可欠と強調されました¹⁶¹。

4. 人材育成と労働影響：AIの社会実装が進むにつれ、労働市場や教育への影響も顕在化しています。繰り返し業務の自動化により一部職種が不要になる一方、新たなAI関連職種（データアナリスト、AIエンジニア、AIトレーナー等）の需要が高まっています。中国政府はAI人材の量・質ともに拡大すべく、大学でのAI専門課程設置やオンライン教育でのAI講座提供などを進めています。WAICでは「**AI時代の人材育成**」が議題となり、AIが奪う仕事・生む仕事について議論されました。結論として、人間ならではの創造力・共感力・倫理観を持つ人材が重要で、AIはそれを補完するツールとなるべきとの見解が多く出されました。また**教育AI**は人的リソース不足を補う手段としても期待され、過疎地域・途上国での遠隔教育への活用が国連機関からも提案されました⁹⁶。

5. 倫理・信頼性の確保：AIシステムへの**信頼**をどう築くかも大きな課題です。WAICのAIガバナンス関連フォーラムでは、AIの偏見・差別・安全性について議論がありました。キッシンジャー氏の「人類の運命と尊厳を技術進化の中心に据えよ」との2021年メッセージが紹介され、「**興奮と警戒のバランス**」が呼びかけられました¹⁶²。中国でもAI倫理ガイドラインが2021年に制定されており、WAICでも「**Tech for Good（技術を善へ）**」がキーワードとして掲げられました¹⁶³。例えばAIチャットボットが暴言や虚偽を出さないよう安全フィルターを設ける、顔認識AIが公共の利益に反する使われ方をしないよう規制する、といった動きがあります。上海市はAIガバナンスで世界をリードする意欲を見せており、「**Shanghai AI Code**」のような自主原則を策定しています。またWAICではAIが自律的に判断する領域（自動運転や医療AIの緊急対応等）での**人間の介入方法**も論じられました。最終的には、AIが広く社会に受け入れられるためには「**説明責任**（なぜその判断をしたか説明可能なAI）」「**公平性**（バイアスの除去）」「**安全性**（誤作動や悪用の防止）」が欠かせないという点で一致しています¹⁶⁴。

6. ユーザー体験と社会影響：AIはその高度さゆえに、ユーザーに新たな心理的・社会的影響を及ぼす可能性があります。例えば前述のNeuroboが開発した**AIスマートドール**は、人がアニメキャラクターのAIと会話し日常を共にするという新しい体験を生み出した^{108 109}。Neuroboの調査では「人は単に1対1でAIドールと繋がりただけでなく、人間の友人とAIを交えた**新しい社会的つながり**を求めている」といった結果も出ており¹⁶⁵、AIが**人間関係や自己表現の在り方を再定義**する可能性があります¹⁶⁶。これに対し、「人々がAIに過度に依存したり、現実と仮想を混同したりしないよう教育やガイダンスが必要」との声もあります。またAIの

普及で情報過多やディープフェイク拡散といった問題も懸念され、リテラシー向上策も議論されています。WAICでは「誰もがAIカーニバルの主役になれる」との表現で、AIを限られた者の遊びではなく大衆のツールにするべきとの意見が出されました¹⁶⁷。つまりAIの恩恵を一部のテック企業や高度人材だけでなく、一般市民が享受できるようデジタルデバイドの解消が重要です¹⁵⁷。

以上、社会実装に向けた課題としてインフラ・コスト、データ規制、人材、倫理、ユーザー受容など多岐にわたる論点が浮かびました。現在の中国では、政府・企業・社会がこれら課題に真剣に取り組みつつ、実装ペースを緩めず前進している状況と言えます。WAIC2025で見られたように、試験導入から本格展開へ移るプロジェクトが次々登場しており、例えば医療AIは「静かな暗闇の後に夜明けが来た」と形容されるほど大手企業の参入で再活性化しています¹⁶⁸。他方で、小規模プレイヤーの淘汰や一部領域での行き過ぎた競争など副作用も現れており、健全なエコシステム維持が課題です。中国当局は「安全発展」をキーワードに、発展とリスク抑制の両立を目指す方針を繰り返し表明しています⁹。今後、この舵取りがうまくいくかが中国AIの持続可能な社会実装の鍵を握るでしょう。

展示内容・注目セッションのハイライト

WAIC2025では多彩な展示ブースとカンファレンスセッションが繰り広げられました。その中でも特に注目を集めたハイライトをまとめます。



図：WAIC2025会場にて生卵のウズラを皮膜を破らずに剥く国産手術ロボットのデモ（0.1ミクロンの精度を誇る）¹⁶⁹

展示ブースのハイライト：
- **超精密手術ロボット：**中国製の全自動マイクロ手術ロボットがウズラの生卵の皮を破らず剥く離れ業を披露し、0.1ミクロンの制御精度に来場者が驚嘆しました¹⁶⁹。このロボットは将来的に眼科や脳外科など超微細手術への応用が期待されています。
- **Galbotの人型ロボットスーパー：**前述のGalbot社はブースに本物さながらのミニスーパーマーケットを再現し、人型ロボットが棚からお菓子袋やペットボトルを取り出しカゴに入れる一連の作業をデモしました¹⁷⁰。事前プログラミングなしで多様な形状の物体を掴み、狭い棚間を動き回る様子はロボット技術の進歩を実感させました¹⁷¹。
- **Unitreeのロボットボクシング：**二足歩行ロボット同士がボクシングリングでスパarringする光景もWAICならではの光景⁴²。観客の声援が上がる中、パンチを繰り返して倒れそうになると自ら起き上がるロボットに多くの人々がカメラを向けていました。エンタメ性のある展示で、AIロボットがエンターテインメントの世界にも進出す

る可能性を示しました。- **対話型アニメAIデバイス**：Neurobo社のブースでは**リュック型のスマート人形**が紹介されました。これはユーザーの行動や感情をセンサーで感じ取り、人気アニメキャラの声で話しかけてくれるもので¹⁰⁸、ファンが日常でキャラクターと対話できるとあって若年層に人気でした。例えば近くに火鍋店があると人形が「今日火鍋食べたいの？」と問いかけるなど、**ユーモアと癒し**を提供するデバイスです¹¹²。- **産業DXソリューション**：CITICグループやシュナイダーなどの合同展示では、工場のリアルタイムモニタリングシステムやデジタルツインによるプロセス最適化ツールが展示されました⁵⁵。実機の部品やセンサーが置かれ、モニター上でAIが不良品検知や工程スケジュール調整を自動で行う様子が示されました。**スマート工場**の実例として、モロッコのライトハウス工場の改善データ（稼働効率+17%など）がグラフで紹介され¹⁷²、来場者は熱心に見入っていました。- **AI for Science**：AIを科学研究に応用する動きも可視化されました。多国籍企業ユニリーバは**6大AIモデルを統合した「AI for Science」プラットフォーム**を展示し、中国R&Dチームが主導したと紹介しました¹⁷³。来場者は実験試薬の探索から効果検証までAIが数ヶ月でこなすプロセス説明を聞き、R&D効率化の将来像に興味を示しました¹⁷⁴。- **WPS AIオフィス**：オフィスソフト大手WPS（金山軟件）はブースで**AI統合オフィススイート**を体験可能にしました¹⁷⁵。来場者が文章を書き始めるとAIが自動補完提案を出したり、音声入力で表計算を操作できる様子に、多くのビジネスマンが足を止めました。生成AIが日常業務の生産性を高めるデモとして、非常に実用的な展示でした。

注目カンファレンスセッション：- **開幕式ハイレベルフォーラム（グローバルAIガバナンス主会議）**：国連事務総長ビデオメッセージ、李強総理基調講演、そしてヒントン博士やシュミット氏ら世界的知識人の討議が行われました¹⁷⁶⁴。AIのリスクと恩恵、国際ルール作り、米中協力の必要性などが率直に語られ、メディアでも大きく報道されました。特にシュミット×沈向洋対談は、米中テックトップの生の声として注目を集め、「対立より協調を」とのメッセージが発信されました¹³⁹¹⁴¹。- **「Intelligent Dialogues, Shared Future」円卓会議**：上海市外事弁公室とChina Dailyが共催した産業リーダー討論会で、商湯・徠捷科技（Laiye）・文格科技などのトップが参加しました¹⁷⁷。ここではAIがもたらす産業変革や生活改善、上海における政策・イノベーション環境がテーマとなり、**上海のグローバルAIハブ構想**が語られました¹⁷⁸。SenseTimeのShi氏は「10年のAI旅で多くの挑戦と報酬を得た。我々の知見を国内外の企業に共有したい」と述べ¹⁷⁹、上海発イノベーションの発信意欲を示しました。- **「AI Transformation・Future Health」フォーラム**：医療AIに特化したセッションで、前述の医療AI標準体系発表や、中国医師協会・汎飛医療の代表らによるパネル討論が行われました⁹²。医療AIの産業化や規制整備の課題について活発な議論が交わされ、医師・患者の視点も交えた**実践的な知見**が共有されました。医療従事者からは「AIは医師の仕事を奪うのではなく、煩雑な作業を肩代わりして本来の治療行為に集中させる**良き相棒**になる」との意見も出され、会場の共感を呼びました。- **Win-Win BRICS AIフォーラム**：新興国によるAI協力が議題のフォーラムで、ブラジルや南アの関係者も参加しました¹⁵²。BRICS AIネットワーク立ち上げの発表¹⁸⁰に加え、各国のAI政策紹介、途上国の課題（インフラ不足、人材流出など）について意見交換がなされました。百度の張潤氏はここでオープンソースの重要性を説き¹⁰⁴、インド代表は多言語AIの協力開発を提案するなど、具体的な連携の芽が確認できました。- **中国・ASEAN AI協力会議**：ASEAN諸国と中国とのAI分野協力を話し合う場もありました¹³⁴。スマートシティやスマート農業での協業、人材交流や規制対話の促進が議論され、数件の都市間MOU締結も行われました。ASEANは中国にとって「一帯一路」の重要地域であり、AI技術輸出やマーケット開拓のフロンティアと位置付けられています。

この他、**AGI（汎用人工知能）**の未来を展望するセッションや、**AIと人間の共生**を哲学・教育の観点から討議するパネル、**AI安全・AI兵器**に関する討論など、多岐にわたるプログラムが組まれていました。加えて、WAIC恒例の**世界AIコンテスト決勝**も開催され、国内外の学生・開発者チームが創意工夫のAI作品で競いました。これら全体を通じ、WAICは単なる見本市ではなく、**政策・産業・学術・市民を結ぶ総合プラットフォーム**であることが示されました¹⁸¹。大会終了後、上海市関係者は「**AIは上海の日常の一部になりつつある。ここからが本当の旅の始まりだ**」と述べ、来年以降への抱負を語っています¹⁸²。WAIC2025の展示・セッションで得られた知見は、中国および世界のAI推進に向けた重要な財産となったと言えるでしょう。

今後の展望と結論

WAIC2025を通じて浮かび上がった中国AI分野のトレンドと特徴を総括すると、以下のような構図が見えてきます。

まず技術面では、**大規模生成AIと具身知能（ロボティクス）の二大潮流**が際立ちました。中国企業はLLMやマルチモーダルモデルで米国に迫る勢いを示し、動画・3D生成など新領域でも先鞭をつけています。一方、実世界にAIを浸透させるロボット工学でも独創的なアプローチ（Sim2Real等）で成果を上げつつあり、「**ハード×AI**」の**総合力**が中国の強みとして浮上しました。この二軸は相互補完的で、今後中国は**高度な知能（ソフト）を持つロボット（ハード）**という次世代AI像に向け前進するでしょう⁵⁰。

産業面では、**AIの本格実装とエコシステム形成**が進みました。大手テック企業から非IT業種までAIを戦略に組み込み、スタートアップも巻き込みながら**実利志向の開発競争**が繰り広げられています。中国AI産業は「マネー・人材・市場」の循環が生まれ、官民の支援も手厚く、着実に競争力を増しています。もっともモルモットの過当競争や資源の浪費といった課題も見え始めており、今後は**効率と質の確保**が課題となるでしょう。その点、WAICで進む標準化や協調は好材料であり、共通基盤づくりによって無駄を省きイノベーションを加速できる可能性があります^{75 60}。

政策面では、中国政府は改めて**AIを国家戦略の柱**と位置付け、トップレベルのコミットメントを示しました。李強総理の号令一下、新組織（WACO）提唱や行動計画策定、都市ごとの実証区展開など、縦横に政策を繰り出しています。これは諸刃の剣で、政府の関与が技術革新を促す一方、行き過ぎればイノベーションの自発性を損なうリスクもあります。しかしWAICの雰囲気を見る限り、中国のAIコミュニティは**政府との協働を前提にしたエコシステム**を受容しており、むしろ規制当局や標準化組織と建設的対話をしながら進んでいる印象です。中国独特のガバナンスモデルがどこまで成果を出すか、今後も注視が必要です。

国際的には、**競いながら協力する**という複雑な構図が続くでしょう。米中間の技術覇権争いはAIチップなどハード面で厳しさを増す可能性がありますが、ソフト面ではオープンソースなど**民間協力の余地**が残ります²⁷。中国は自らをAIグローバルガバナンスのリーダーとして売り込み、開発途上国支援や多国間対話でイニシアティブを握ろうとしています。この努力が実を結べば、中国はAI分野で**ルールメーカー**としての地位を向上させるでしょう。ただし欧米との価値観の違い（例えば監視技術や人権問題へのAI利用）は根強く、完全な信頼醸成には時間を要する見通しです。WAIC2025でのシュミット氏の発言¹⁴¹やヒントン氏の警鐘¹⁵⁵は、米中が協力しない限りAIのリスク管理は難しいという現実を突きつけました。この認識が両国政府に共有されるかが、大局を左右するでしょう。

最後に、社会実装の視点では、**AIが人々の生活をどう変えるか**という本質的問いに向き合う段階に来ています。WAICで示されたスマート医療や教育AI、AIコンパニオンやスマートシティは、AIが人間の生活の質を高め得ることを示す一方で、新たな依存や格差の種を撒く可能性も孕みます。中国は技術への社会の適応力が高いと言われますが、それでも慎重な舵取りが必要です。AIによる**効率と利便性の追求**と、人間の尊厳や多様性の尊重とのバランスを取ることが求められます^{162 61}。WAIC2025はこの点で、多様なステークホルダーが一堂に会し議論することで**倫理的・社会的側面への意識**を高める役割を果たしました。

結論として、中国のAI産業はWAIC2025を一つの弾みとして、**技術革新の深化、産業実装の拡大、政策環境の整備、国際発信の強化**という4つの軌道を力強く進んでいくと予想されます。中国は今や「AI大国」と呼べる存在感を示しましたが、真の意味で世界をリードする「AI強国」となるには、基礎研究から応用、ルール作りまで包括的なリーダーシップが不可欠です。WAIC2025はその方向性を示す一里塚となり、「**追従から創造へ**」の転換点を印象付けました¹³。もっとも、AI技術の進歩は日進月歩であり、中国にとってもチャレンジの連続です。次回WAICや他の国際会議でどのような新展開が示されるか、引き続き注目する必要があります。中国の掲げる「**智能时代・同球共济**」、すなわち**AI時代のグローバル連帯**がどこまで実現されるか——その答えは、これからの一年一年にかかっていると言えるでしょう。

【参考資料】

- China Daily (2025): Nation's AI industry hailed as economic growth driver 1 2 7 13 115 116 149
- China Daily (2025): AI visionaries converge in Shanghai to chart the future of innovation 177 98
- China Daily (2025): Galbot banks on Sim2Real for expansion 35 38 40 183 46 45
- China Daily (2025): AI meets anime in daily life 108 109 165
- China Daily (2025): Video generation AI creating new niche 22 24 26 29 34
- Global Times (2025): World-class AI technologies set to shine at WAIC 5 6 28 50 119 12 120
- South China Morning Post (2025): WAIC Shanghai: 1,509 AI models; Tencent & SenseTime new models 14 15 18
- Qiushi (Xinhua, 2025): Bridging global intelligence divide: China's solutions 3 147 20 54 55 56 104 96 53
- IAPP (2025): China unveils global AI initiatives 9 11 184 153 133
- BCC Media (2025): 2025 WAIC: Medical AI Makes a Comeback 63 65 69 71 77 81 85 30 87 93
- iFLYTEK (2025): Xunfei Healthcare at WAIC 2025 (Press Release) 74 75 89 91 90
- Geopolitech (2025): Li Qiang's WAIC speech and Global AI Governance Action Plan 124 126 129 51 60 164
- Shanghai Government (2025): WAIC Latest News (english.shanghai.gov.cn) 138 139 141 27 185

1 2 7 8 13 115 116 121 149 159 160 169 173 174 Nation's AI industry hailed as economic growth driver_Latest

<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250729/43f3d5f271654f13ac71d29824f80f34.html>

3 20 21 52 53 54 55 56 95 96 104 105 130 132 147 148 150 151 152 154 155 156 157 158 172 175 176 180

Bridging global intelligence divide: China's solutions to making AI more inclusive

https://en.qsttheory.cn/2025-07/30/c_1113238.htm

4 27 42 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 162 185 In the AI age, what will shape the future: competition or cooperation?_AI Insights from Experts

<https://english.shanghai.gov.cn/en-AllInsightsfromExperts/20250729/1cf19d6bea2442deaa2f744eb7bd338e.html>

5 6 12 28 33 50 99 102 119 120 World-class AI technologies, products set to shine at WAIC 2025 in Shanghai, showcasing China's AI prowess - Global Times

<https://www.globaltimes.cn/page/202507/1338628.shtml>

9 10 11 57 131 133 153 161 184 Notes from the Asia-Pacific region: China unveils global AI initiatives | IAPP

<https://iapp.org/news/a/notes-from-the-asia-pacific-region-china-unveils-global-ai-initiatives>

14 32 WAIC Shanghai: China reveals new great leap forward with 1,509 AI models | South China Morning Post

<https://www.scmp.com/tech/tech-trends/article/3319878/waic-shanghai-china-reveals-new-great-leap-forward-1509-ai-models>

15 16 17 18 19 97 100 101 WAIC Shanghai: Tencent, SenseTime launch new AI models to stir up industry rivalry | South China Morning Post

<https://www.scmp.com/tech/article/3319751/waic-shanghai-tencent-sensetime-launch-new-ai-models-stir-industry-rivalry?module=inline&pgtype=article>

22 23 24 25 26 29 34 Video generation AI creating new niche_Latest

<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250731/3e78fefe4deb4fc9a5a0b935f6f7f24c.html>

30 31 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 93 168 2025

WAIC: Medical AI Makes a Comeback – BCC.Global Media

<https://bccmedianews.com/?p=3774>

35 36 37 38 39 40 41 45 46 47 107 170 171 183 Galbot banks on Sim2Real for expansion_Latest

<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250801/802fa0a5972f40fea2b2c2ce560f3f3f.html>

43 44 98 114 163 167 177 178 179 AI visionaries converge in Shanghai to chart the future of innovation_Latest

<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250730/aa32093299c04f02876379f2760fd7db.html>

48 49 WAIC 2025 unveils China's latest robotics tech - TechNode

<https://technode.com/2025/07/29/from-retro-streets-and-robot-assembly-to-robot-boxing-waic-2025-unveils-chinas-latest-robotics-tech/>

51 60 61 123 124 125 126 127 128 129 164 2025 World Artificial Intelligence Conference Kicks Off in Shanghai

<https://www.geopolitech.org/p/2025-world-artificial-intelligence>

58 59 103 WAIC 2025: 斑马智行元神AI大模型，获全球机构测评第一 - 雷锋网

<https://www.leiphone.com/category/industrynews/0fnx4GgYx2IE6FyO.html>

74 75 88 89 90 91 92 Xunfei Healthcare Takes Center Stage at WAIC 2025, Leading Development of 10 Core Sub-Standards for the “Standard System for Intelligent Agents in the Healthcare Industry”-News-iFLYTEK

<https://www.iflytek.com/en/news-events/news/277.html>

94 181 2025 World AI Conference

<https://english.shanghai.gov.cn/en-2025WAIC/index.html>

106 2025世界人工智能大会：峰值出字速度200token/s，OPPO刷新端侧 ...

<http://www.xinhuanet.com/tech/20250726/3a0f20126d904a2f96a829932f2b28f4/c.html>

108 109 110 111 112 165 166 AI meets anime in daily life_Latest

<https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250731/08f89062f31e438c8ba0e726c18b7432.html>

113 Forging the Future with Large Models: WAIC 2025 “AI+ - SenseTime

<https://www.sensetime.com/en/news-detail/51169815?categoryId=1072>

117 WAIC | 在上海，看到人类的未来——走进2025世界人工智能大会

<https://www.sh-italent.com/Article/202507/202507280015.shtml>

118 现场深度观察：原来AI已经悄悄“卷”成这样 | WAIC 2025 - 动点科技

<https://cn.technode.com/post/2025-07-31/waic2025-insight/>

122 Shanghai unveils 12 new measures to boost AI development (Issue 105)_Shanghai Weekly Bulletin

<https://english.shanghai.gov.cn/en-ShanghaiWeeklyBulletin/20250806/8b8d8e55c4dd4d71800c4308e9715071.html>

134 WAIC 2025 China-ASEAN AI Forum

<https://aiiii.global/waic-2025-china-asean-ai-forum/>

135 "Hong Kong Pavilion" • World Artificial Intelligence Conference 2025 ...

https://home.hktdc.com/en/factsheet/FS-XYi4QHke_WAIC2025

136 China's AI Ambition, Innovation, and Bubbles at WAIC 2025 - AI Proem

<https://aioproem.substack.com/p/chinas-ai-ambition-innovation-and>

182 WAIC-World Artificial Intelligence Conference | Shanghai - Facebook

<https://www.facebook.com/p/WAIC-World-Artificial-Intelligence-Conference-100093163388218/>